



基本的なデバイス管理

この章では、Cisco NX-OS デバイスの基本設定を構成、管理、確認する方法について説明します。

- [基本的なデバイス管理の概要, on page 1](#)
- [デバイスのホスト名の変更, on page 4](#)
- [管理インターフェイスの設定 \(5 ページ\)](#)
- [デフォルトゲートウェイの構成 \(6 ページ\)](#)
- [MOTD バナーの設定, on page 7](#)
- [タイムゾーンの設定, on page 8](#)
- [夏時間の設定, on page 9](#)
- [デバイス クロックの手動設定, on page 10](#)
- [ユーザーの管理, on page 11](#)
- [Telnet サーバー接続の有効化または無効化 \(12 ページ\)](#)
- [Secure Erase \(13 ページ\)](#)
- [デバイス コンフィギュレーションの確認, on page 14](#)
- [基本的なデバイス パラメータのデフォルト設定, on page 15](#)

基本的なデバイス管理の概要

ここでは、基本的なデバイス管理の概要について説明します。

デバイスのホスト名

コマンドプロンプトに表示されるデバイスのホスト名を、デフォルト (switch) から別のストリングに変更できます。デバイスに固有のホスト名を付けると、コマンドラインインターフェイス (CLI) プロンプトからそのデバイスを容易に特定できます。

インターフェイス



Note Cisco MDS 9700 シリーズ スイッチの管理 10/100 イーサネット ポート (mgmt0) インターフェイスに、削除できない事前設定済みの /0 IPv6 アドレスがある場合は、**write erase boot** コマンドを使用してデバイスの完全な構成をクリアし、リロードします。このプロセスをシステムの現用系なスーパーバイザに適用すると、ユーザートラフィックが中断されるため、デバイスを実稼働にコミショニングする前にこのプロセスを実行します。このプロセスにより mgmt0 インターフェイスの IPv4 アドレスが削除されるため、スーパーバイザへの現用系なコンソール接続を確認してください。

管理インターフェイスは、同時に複数の Telnet または SNMP セッションを許可します。スイッチは、管理インターフェイス (mgmt0) を介してリモートで構成できますが、スイッチにアクセスできるようにまず一部の IP パラメータを構成しておく必要があります。CLI から手動で管理インターフェイスを設定できます。IPv4 アドレス パラメータまたは IPv6 アドレスが設定された mgmt0 インターフェイスを設定できます。

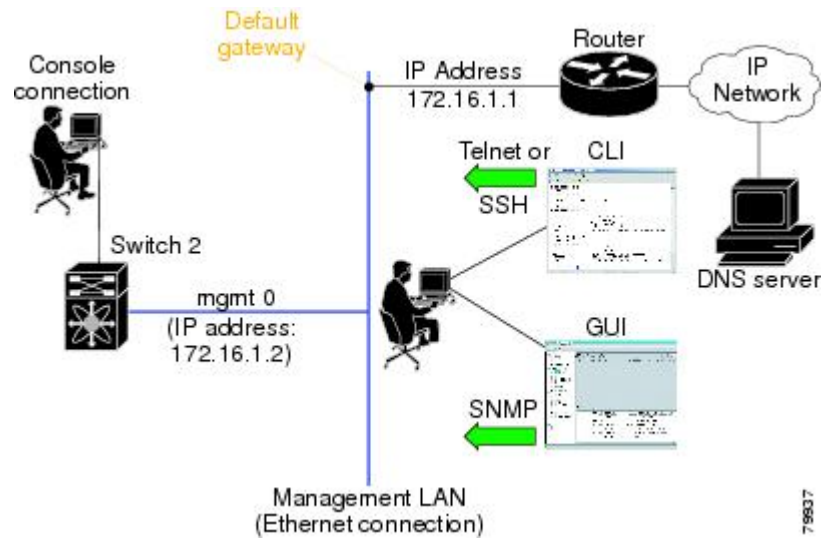
デュアルスーパーバイザモジュールを備えたデバイスでは、単一の IP アドレスを使用してスイッチを管理します。アクティブスーパーバイザモジュールの mgmt0 インターフェイスがこの IP アドレスを使用します。スタンバイスーパーバイザモジュール上の mgmt0 インターフェイスは非アクティブなままで、スイッチオーバーが発生するまでアクセスできません。スイッチオーバーが行われると、スタンバイスーパーバイザモジュール上の mgmt0 インターフェイスがアクティブになり、アクティブであったスーパーバイザモジュールと同じ IP アドレスを引き継ぎます。

管理ポート (mgmt0) は自動検知で、全二重モードおよび 10/100/1000Mbps の速度で動作します。自動検知では、この速度とデュプレックスモードがサポートされます。

デフォルトゲートウェイ

図 1: デフォルトゲートウェイ

スーパーバイザモジュールは、接続先 IPv4 アドレスを取得していない IP パケットをデフォルトゲートウェイに送信します。



Message-of-the-Day バナー

Message-of-The-Day (MOTD) バナーは、デバイス上でユーザログインプロンプトの前に表示されます。このメッセージには、デバイスのユーザに対して表示する任意の情報を含めることができます。

デバイス クロック

デバイスを NTP クロック ソースなどの有効な外部の時間調整機構と同期させない場合は、デバイスの起動時にクロック タイムを手動で設定できます。

タイムゾーンと夏時間

デバイスのタイムゾーンと夏時間を設定できます。これらの値により、クロックの時刻が協定世界時 (UTC) からオフセットされます。UTC は、国際原子時 (TAI) をベースにしており、うるう秒を定期的に追加することで地球の自転の遅れを補償しています。UTC は、以前はグリニッジ標準時 (GMT) と呼ばれていました。

ユーザセッション

デバイス上のアクティブなユーザセッションを表示できます。また、ユーザセッションにメッセージを送信することもできます。ユーザセッションおよびアカウントの管理の詳細については、ご使用のデバイスの Cisco Nexus security configuration guide を参照してください。

Telnet サーバの接続

Cisco MDS 9000 ファミリのすべてのスイッチにおいてデフォルトでディセーブル化されています。セキュアな SSH 接続が必要ない場合は、Telnet サーバを有効にすることができます。しかし、セキュア SSH 接続が必要な場合、デフォルトの Telnet 接続をディセーブル化してから、SSH 接続をイネーブルにする必要があります。



(注) スーパーバイザ モジュールのコンソール ポートに端末を接続する方法については、『[Cisco MDS 9200 Series Hardware Installation Guide](#)』または『[Cisco MDS 9500 Series Hardware Installation Guide](#)』を参照してください。



(注) Cisco NX-OS softwareは、Cisco MDS 9500 シリーズまたは Cisco MDS 9200 シリーズのすべてのスイッチで、最大 16 のセッションが可能です。

デバイスのホスト名の変更

コマンドプロンプトに表示されるデバイスのホスト名を、デフォルト (switch) から別のストリングに変更できます。

SUMMARY STEPS

1. **configure terminal**
2. **{hostname | switchname} name**
3. **exit**
4. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	configure terminal Example: <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 2	{hostname switchname} name Example: hostname コマンドの使用 : <pre>switch(config)# hostname Engineering1 Engineering1(config)#</pre> switchname コマンドの使用 :	デバイスのホスト名を変更します。 <i>name</i> 引数は、63 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。デフォルト名は switch です。 Note switchname コマンドは、 hostname コマンドと同じ機能を実行します。

	Command or Action	Purpose
	Engineering1 (config) # switchname Engineering2 Engineering2 (config) #	
ステップ 3	exit Example: Engineering2 (config) # exit Engineering2 #	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) copy running-config startup-config Example: Engineering2 # copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

管理インターフェイスの設定

CLI から手動で管理インターフェイスを設定できます。IPv4 アドレス パラメータまたは IPv6 アドレスが設定された `mgmt0` インターフェイスを設定できます。



- (注) 現用系スーパーバイザモジュールで `mgmt0` インターフェイスを設定するだけで済みます。スーパーバイザモジュールのスイッチオーバーが発生すると、新しい現用系スーパーバイザモジュールは `mgmt0` インターフェイスに同じ構成を使用します。

始める前に

コンソールポートへの接続を確立します。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **interface mgmt 0**
3. **ip address {ipv4-address subnet-mask | ipv6-address}**
4. **exit**
5. (任意) **show interface mgmt 0**
6. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル構成モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	interface mgmt 0 例： <pre>switch(config)# interface mgmt 0 switch(config-if)#</pre>	mgmt0 インターフェイスを指定しますそして、インターフェイス 構成モードを開始します。
ステップ 3	ip address {ipv4-address subnet-mask ipv6-address} 例： <pre>switch(config-if)# ip address 1.1.1.0 255.255.255.0</pre>	mgmt 0 インターフェイス上の IPv4 または IPv6 アドレスを構成します。
ステップ 4	exit 例： <pre>switch(config-if)# exit switch(config)#</pre>	グローバル構成モードに戻ります。
ステップ 5	(任意) show interface mgmt 0 例： <pre>switch(config)# show interface mgmt 0</pre>	mgmt 0 インターフェイス情報を表示します。
ステップ 6	(任意) copy running-config startup-config 例： <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

デフォルトゲートウェイの構成

CLI から手動で管理インターフェイスを設定できます。IPv4 アドレス パラメータまたは IPv6 アドレスが設定された mgmt0 インターフェイスを設定できます。

始める前に

コンソール ポートへの接続を確立します。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **ip default gateway ipv4-address**
3. (任意) **show ip route**
4. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 2	ip default gateway ipv4-address 例： switch(config)# ip default-gateway 172.16.1.1	デフォルト ゲートウェイの IPv4 アドレスを設定します。
ステップ 3	(任意) show ip route 例： switch(config)# show ip route	出荷時のデフォルト ゲートウェイ構成を表示します。
ステップ 4	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config)# copy running-config startup-config	mgmt 0 インターフェイス上の IPv4 または IPv6 アドレスを構成します。

MOTD バナーの設定

ユーザーがログインするときに端末でログインプロンプトの後に MOTD が表示されるよう設定できます。MOTD バナーには、次の特徴があります。

- 1 行あたり最大 254 文字
- 最大 40 行

SUMMARY STEPS

1. **configure terminal**
2. **banner motd delimiting-character message delimiting-character**
3. **exit**
4. (Optional) **show banner motd**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	configure terminal Example: switch# configure terminal switch(config)#	グローバル設定モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	banner motd <i>delimiting-character message delimiting-character</i> Example: <pre>switch(config)# banner motd #Welcome to the Switch# switch(config)#</pre>	MoTD バナーを設定します。メッセージテキストでは、区切り文字を使用しないでください。 Note "または%は、区切り文字に使用しないでください。
ステップ 3	exit Example: <pre>switch(config)# exit switch#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show banner motd Example: <pre>switch# show banner motd</pre>	設定された MOTD バナーを表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

タイムゾーンの設定

UTC からデバイスのクロック時刻をオフセットするためにタイムゾーンを設定できます。

SUMMARY STEPS

1. **configure terminal**
2. **clock timezone *zone-name offset-hours offset-minutes***
3. **exit**
4. (Optional) **show clock**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	configure terminal Example: <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル設定モードを開始します。
ステップ 2	clock timezone <i>zone-name offset-hours offset-minutes</i> Example: <pre>switch(config)# clock timezone EST -5 0</pre>	タイムゾーンを設定します。 <i>zone-name</i> 引数は、タイムゾーンの略語 (PST や EST など) である 3 文字の文字列です。 <i>offset-hours</i> 引数は、UTC からのオ

	Command or Action	Purpose
		フセット値であり、有効な範囲は-23 ~ 23 時間です。 <i>offset-minutes</i> 引数の範囲は、0 ~ 59 分です。
ステップ 3	exit Example: switch(config)# exit switch#	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show clock Example: switch# show clock	時間とタイムゾーンを表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

夏時間の設定

デバイスで夏時間を有効にする時期と、オフセット（分単位）を設定できます。

SUMMARY STEPS

1. **configure terminal**
2. **clock summer-time** *zone-name start-week start-day start-month start-time end-week end-day end-month end-time offset-minutes*
3. **exit**
4. (Optional) **show clock detail**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	configure terminal Example: switch# configure terminal switch(config)#	グローバル設定モードを開始します。
ステップ 2	clock summer-time <i>zone-name start-week start-day start-month start-time end-week end-day end-month end-time offset-minutes</i> Example: switch(config)# clock summer-time PDT 1 Sunday March 02:00 1 Sunday November 02:00 60	夏時間を設定します。 <i>zone-name</i> 引数は、タイムゾーンの略語（PST、EST など）である 3 文字のストリングです。 <i>start-day</i> 引数と <i>end-day</i> 引数の値は、 Monday 、 Tuesday 、 Wednesday 、 Thursday 、 Friday 、 Saturday 、および Sunday です。

	Command or Action	Purpose
		<p><i>start-month</i> および <i>end-month</i> 引数の値は January、February、March、April、May、June、July、August、September、October、November、および December です。</p> <p><i>start-time</i> および <i>end-time</i> 引数の値は、<i>hh:mm</i> フォーマットです。</p> <p><i>offset-minutes</i> 引数の範囲は、0 ~ 1440 分です。</p>
ステップ 3	<p>exit</p> <p>Example:</p> <pre>switch(config)# exit switch#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	<p>(Optional) show clock detail</p> <p>Example:</p> <pre>switch(config)# show clock detail</pre>	設定された MOTD バナーを表示します。
ステップ 5	<p>(Optional) copy running-config startup-config</p> <p>Example:</p> <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

デバイスクロックの手動設定

デバイスがリモートの時刻源にアクセスできない場合、クロックを手動で設定できます。

Before you begin

タイムゾーンを設定します。

SUMMARY STEPS

1. **clock set** *time day month year*
2. (Optional) **show clock**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<p>clock set <i>time day month year</i></p> <p>Example:</p> <pre>switch# clock set 15:00:00 30 May 2008 Fri May 30 15:14:00 PDT 2008</pre>	<p>デバイスクロックを設定します。</p> <p><i>time</i> 引数のフォーマットは <i>hh:mm:ss</i> です。</p> <p><i>day</i> 引数の範囲は 1 ~ 31 です。</p>

	Command or Action	Purpose
		<i>month</i> 引数の値は January 、 February 、 March 、 April 、 May 、 June 、 July 、 August 、 September 、 October 、 November 、および December です。 <i>year</i> の引数の範囲は 2000 ~ 2030 です。
ステップ 2	(Optional) show clock Example: switch(config)# show clock	現在のクロック値を表示します。

Related Topics[タイムゾーンの設定](#) (8 ページ)

ユーザーの管理

デバイスにログインしたユーザの情報を表示したり、それらのユーザにメッセージを送信したりできます。

ユーザセッションに関する情報の表示

デバイス上のユーザセッションに関する情報を表示できます。

SUMMARY STEPS

1. **show users**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	show users Example: switch# show users	ユーザセッションを表示します。

ユーザーへのメッセージ送信

デバイス CLI を使用して、現在アクティブなユーザにメッセージを送信できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **show users**
2. **send [session line] message-text**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) show users Example: switch# show users	アクティブなユーザセッションを表示します。
ステップ 2	send [session line] message-text Example: switch# send Reloading the device is 10 minutes!	すべてのアクティブなユーザまたは特定のユーザにメッセージを送信します。このメッセージは最大 80 文字の英数字で、大文字と小文字が区別されます。

Telnet サーバー接続の有効化または無効化

Telnet サーバー接続をイネーブル化または、ディセーブル化できます。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **[no] feature telnet**
3. (任意) **show telnet server**
4. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル設定モードを開始します。
ステップ 2	[no] feature telnet 例： switch(config)# feature telnet	Telnet サーバー接続をイネーブル化します。Telnet サーバー接続をディセーブル化するにはコマンドの no 形式を使用します。デフォルトではディセーブルになっています。
ステップ 3	(任意) show telnet server 例： switch(config)# show telnet server	Telnet サーバの設定を表示します。
ステップ 4	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config)# copy running-config startup-config	実行構成を、スタートアップ設定にコピーします。

Secure Erase

Secure Erase 機能を使用すると、Cisco MDS スイッチからすべての顧客情報を消去できます。Cisco MDS スイッチは、システムソフトウェアイメージ、スイッチ構成、ソフトウェアログ、および動作履歴を保存します。保存される情報には、ネットワークアーキテクチャの詳細、ユーザーのログイン情報、データ盗難の標的となる可能性のある顧客データなど、顧客固有の情報が含まれている可能性があります。

安全に消去する機能は、次のシナリオで使用できます。

- デバイスの返品: 交換のためにデバイスをサプライヤに返品する必要がある場合。
- 侵害を受けたデバイスのリカバリ: デバイスに保存されているキー情報またはクレデンシャルが侵害を受けた場合は、デバイスを初期設定にリセットし、デバイスを再構成してください。
- デバイスの廃止: デバイスがデータセンターのセキュリティを離れる可能性がある再配置またはサポート終了の一部としてデバイスがサービスから削除される場合。

安全な消去を実行するための前提条件

- 安全な消去操作を実行する前に、すべてのソフトウェアイメージ、構成、個人データ、等々がバックアップ（必要な場合）されていることを確認してください。
- 安全な消去プロセスの進行中に電源が遮断されないようにしてください。そうしないと、消去は完了しません。
- 安全な消去プロセスを開始する前に、In-Service Software Upgrade (ISSU) または In-Service Software Downgrade (ISSD) が進行中でないことを確認します。

安全な消去の注意事項と制約事項

- 安全な消去プロセスは、ターゲット デバイスを通過するネットワーク トラフィックに影響を与えます。この操作が稼働中のデバイスで実行される場合は、データトラフィックに対して代替リンクまたはパスが現用系であることを確認してください。
- 安全な消去プロセスが完了すると、ファブリック スイッチとモジュラ スイッチの動作が異なります：
 - ディレクタ スイッチとファブリック スイッチのスーパーバイザの場合、デバイスはローダー プロンプトのままです。
 - ディレクタ スイッチのラインカードの場合、ラインカードの電源が切れます。
- ディレクタ スイッチの現用系スーパーバイザまたはファブリック スイッチを消去すると、リモート接続が永久に失われます。プロセスがいつ完了し、エラーがないことを確認するには、コンソールセッションでコマンドを実行します。ただし、ディレクタ ラインカー

ドとスタンバイ スーパーバイザの消去は、SSH セッションから開始およびモニタリング
できます。

安全に消去するを実行します

Director スイッチのモジュールは個別に消去する必要があります。ディレクタ スイッチ上のすべてのモジュールを消去するには、1) ラインカード、2) スタンバイ スーパーバイザ、3) 現用系スーパーバイザの順に消去します。

Director モジュールのすべての情報を安全に消去するには、次の手順を実行します。

モジュール上のすべてのデータを消去します：

```
switch# factory-reset module number
```

消去プロセスの後、モジュールはスーパーバイザの場合はローダープロンプトのままになり、ラインカードの場合は電源が切断された状態になります。

モジュールが交換対象のラインカードである場合、新しいラインカードは、次のようにスロットに挿入した後に電源を入れる必要があります。

1. グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

```
switch# configure t
```

2. ラインカードの電源投入をします。

```
Switch(config)# no poweroff module number
```

ファブリック スイッチはシングルモジュールスイッチであり、**module** オプションは必要ありません。ファブリック スイッチ上のすべての情報を安全に消去するには、次の手順を実行します。

スイッチ上のすべてのデータを消去します。

```
switch# factory-reset
```

消去プロセスの後、スイッチは ローダー プロンプトのままになります。

デバイス コンフィギュレーションの確認

POAP を使用してデバイスのブートストラップ後の構成を確認するには、次のコマンドのいずれかを使用します：

コマンド	目的
show running-config	Running Configuration を表示します
show startup-config	スタートアップコンフィギュレーションを表示します。

これらのコマンドの出力フィールドの詳細については、ご使用のデバイスの Cisco Nexus コマンド参考資料を参照してください。

基本的なデバイスパラメータのデフォルト設定

次の表に、基本的なデバイスパラメータのデフォルト設定を示します。

Table 1: デフォルトの基本的なデバイスパラメータ

パラメータ	デフォルト
MOTD バナー テキスト	User Access Verification
クロック タイムゾーン	UTC

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。